

ぶどう組『みどりのくに』で遊ぼう！

出雲市立中央保育所・幼稚園（島根県出雲市）

[5 歳児]

- ねらい 友達と思いや考えを出し合い、試したり工夫したりしながら、自分なりの目当てをもって遊ぶ。動植物に関わり、進んで世話をしながら、生長に気付いたり、調べたりする。

2. 基盤

子どもの実態	活動について
<p>保護者と共に『ISO14001』やリサイクル活動等に取り組み、環境活動への意識が高まりつつある。日常では余った紙をリサイクル箱に入れる、園外では「ゴミがあった」と拾うなどの習慣が、自然と身についてきた。豆、ゴーヤ、ひょうたんなど、種から育て、生長する喜びを味わい、野菜やグリーンカーテンができることを楽しみにしている。</p> <p>身近にある素材を自分で集め、飾ったり作ったりなどをしたことから、『みどりのくに』をどんな風にしたいか考えたり、イメージを広げたりすることに楽しさを感じている。いろいろな素材を組合せ、自分の森作りも始まっている。</p> <p>毎日の温度調べから気温の変化や違い、水温、熱（太陽、ホットプレート、オープンなど）の不思議に興味関心が広がり、ペットボトルビーズや器などを作っている。カタツムリに心を寄せ、名前をつけて飼育をし、一緒に遊ぶ場作りを楽しんでいる。</p> <p>「こんな風にしたい」という思いや考えをもち、工夫しながら継続して遊ぶ子どももいれば、難しい場面ではすぐに担任や友達を頼ろうとする子どももいる。</p>	<p>環境教室を通して、植物があると空気がきれいになる事がわかり、グリーンカーテン作りや植物の栽培など、自分たちが取り組んでいることは「地球が喜ぶことなんだ」とわかり、自信や意欲へとつながっている。アイルランドウイークでの交流や四川大地震の募金活動などから、いろいろな国があることを知り、「ぶどう組にも『みどりのくに』を作ろう！」という声があがる。緑をいっぱいにしたら「地球が喜ぶ」「みんなが気持ちいいし、嬉しい」「歌を作ろう！」など、子どもたちなりに考え、『みどりのくに』作りを楽しんでいる。この活動を通し、好きな場で自分なりに考え、試行錯誤しながら、ぶどう組の仲間みんなの楽しい場としていきたい。</p> <p>これらの活動を通して、研究主題にある「温かな心育て」や「身近な自然や環境にかかわる力を育む」ことにつながる。具体的には、感じる心、イメージを描く、見通しをもつ、振り返る、違いや変化に気付く、疑問や課題を見つける、興味・関心・好奇心などの「かかわる力」を育てることができると考えている。</p>

3. 環境の構成と援助

- ぶどう組の遊びの場を『みどりのくに』とし、一人ひとりが嬉しい、楽しい、気持ちいいと感じられる空間としたい。楽しみ方や作りたい物は違うので、目当てをもって遊べるよう見守ったり認めたりしながら、意欲につなげていく。
- 遊びの中で達成感や充実感が味わえるよう、声をかけるようにしていく。
- 子どもの考えや思いを聞きながら、遊びが深まるような援助をしていく。（素材選び、組み合わせ方、遊び方、イメージの広がりなど）

(1) 地球にいいことはじめよう！の活動（環境教育に主眼を置いて）から 5歳児 6月～7月

子どもの様子	保育者の受け止め(・)と援助(*)
<p>「ぶどう組を『みどりのくに』にしたいな」「私の『緑の森』を作る！」</p> <p>「みんなで飾りを作って、素敵にしよう」</p> <p>『みどりのくに』のイメージを聞くと、みんなが“楽しい、嬉しい、気持ちいい”場所にしたいという意見になる。『みどりのくに』の材料集めが始まる。「他の組にも植物をあげよう」と、緑があると空気がきれいになることを説明し、プレゼントする。</p>	<p>*子どもの活動とかかわりの深い植物に視点をおき、絵を描きながら「植物があると空気がきれいになり地球が喜ぶ」ことを伝える。子どもたちの取り組みはすごいことなんだと再確認させ、自信、意欲につなげる。</p>
<p>6月9日 『みどりのくに』の飾り作りが始まる。「風に揺れると風鈴みたいに音が出たらいいな」「どんな色がきれいかな」</p> <p>みんなで歌を作る</p> <p>「『みどりのくに』を作ろう 空気がきれいになるからね ゴーヤ ヒョウタン カタバミ コケ玉 地球が喜ぶうれしいな グリーン グリーン リンリン」</p>	<p>*飾りや森の材料は園で用意せず、自分で集め、どんな風にしたいかイメージを広げたり、親子で身近な廃材が役に立つことに気付いたりできるようにする。</p>
<p>6月11日</p> <p>3R(リデュース、リユース、リサイクル)のお店へ見学に行く。道中、ゴミ拾いをしたり、枝や草を見つけたりして「『みどりのくに』で使えるよ」と大切に作る姿がある。身近な素材が再利用、再使用され、大切に使われている事を知る。「ペットボトルがシャツになるんだ！」「瓶は植物を育てる石とかになるね」「紙はトイレトペーパーやノートになるよ」(竹や枝の器や飾りを見て)「ぶどう組と一緒にだね！」</p>	<p>*身近にある素材をゴミにするのではなく、リサイクルできるかな、こうしたら使えるかななどと考えたり工夫したりし、大切に使う気持ちが育って欲しい。</p> <p>*「公園で木の枝があったよ」「海で貝殻を見つけたよ」など、意欲的な姿をみんなに知らせ、誉める。</p>



6月17日 エネルギーセンターへ見学に行く。

(保護者より)たくさんのゴミで臭かった事、処理するのに3ヶ月かかる事など話し、「ゴミは出しちゃいけないよ」と言いました。ゴミはどこへ行くのか、排水はどうなるのかなど、疑問に思い、調べようとする姿もあり、とてもいい経験になりました。大人も環境について考えるいい機会になっています。

6月27日

ぶどう組にトンボが入ってきて大喜びをする。
「『みどりのくに』って分かったんじゃない？」
「空気がきれいだからだよ」「素敵な飾りや森が見たかったんだわ~」
保育室には、一人ひとりの風に揺れる飾りがあり、自分の森作りも毎日楽しんでいる。



*『みどりのくに』がみんなの大好きな心地良い空間になっている。自分の森やこけ玉を大切にしているので、保護者へも一人ひとりの取り組みを詳しく伝える。



やった~!
ゴーヤが
できたよ



ぼくのわたしの 森ができたよ

ゴーヤでサラダ
を作ったよ!
おいしいね~

7月グリーンカーテンをしている部屋と、していない部屋の温度調べをする。「ぶどう組の方が温度が『1度』低いね」「日陰で涼しいもん」「風が気持ちいい」

・知識で教えるよりも、実際に自分の心で感じる事が大切であることを保育者同士で確認する。

考察 (科学する心、環境教育の視点より)

- ・ 自分の思い通りに生活し、工夫したり、困ったり、悩んだりしながら乗り越えていく機会のない子どもも多い。子どもたちに『生きる力』『かかわる力』を身につけさせるためには、実際に心を動かすような体験をさせたいと考えた。『みどりのくにを作ろう』の実践は、夢や希望を話し合いながら、植物を育てるための草取り、土作り、ダンボール・竹切り...など、様々な体験をした。子どもだけでなく保育者も一緒に一喜一憂しながらの活動であった。大変だったが故に『みどりのくに』ができた」という、達成感、充実感も大きかった。活動を通して子どもたちの様々な『かかわる力』を育てる機会となった。
- ・ グリーンカーテンや『みどりのくに』作りは、見た目にもさわやかに感じ、暑い夏を涼しくしてくれた。体感することを通し、その結果の素晴らしさを感じた。また、植物や虫と触れ合うことや、収穫した物を味わうことができた。エアコンを使う時間が少なくても快適に過ごすことができるので、二酸化炭素の発生を抑制し、地球温暖化の防止になることを子どもたちは実感しながら学ぶことができた。人間形成の基礎となる幼児期に、環境教育を経験することで、この思いは生涯にわたって継続するのではないだろうか。
- ・ 保護者からも「ツルが屋根まで届きそう」「植物や飾りが日々増えて朝の登園が楽しみ」「緑があって涼しく、癒される」など、反響が大きく、親が子どもを励まし、誉める場面がよく見られた。子どもと園の活動にとどまるのではなく、家庭との連携を深め共感し合うことが、さらに子どもたちの心情、意欲、態度を育てることを実感した。

みどころ

情報化社会の影響で、子どもたちの生活の中にも「環境教育」に関する様々な情報が入ってきています。この事例のように、子どもたちにとって身近に感じられ、自分たちも関心をもって活動できるような情報を保育に取り入れることで、体験を通した子どもらしい学びが期待できます。「自分にできることをやろう」とする気持ちをもって行動することで、確実に環境や身の回りの生活・出来事が変わっていく経験は幼児にとっても大切です。